



たより vol.25

～日本庭園入門～

5月22日（土）に祥雲閣で「日本庭園入門講座」を開催し、14名が参加しました。講師の一級造園技能士 浅坂正吉さんによる庭園についての講話を聞いた後、実際に庭園を散策しました。

梅雨入りを思わせる天候でしたが、庭園の散策中に晴れ間がのぞきました。雨にぬれた木々の緑がひととき鮮やかに目にうつり、参加された方々の心を和ませていた様子でした。



季節の行事

かじょう

嘉祥の日

6月16日は和菓子で邪気退散を願う「嘉祥（かじょう）の日」です。平安時代に流行した疫病を鎮める為、仁明天皇が6月16日に元号を「嘉祥」とし、16個の菓子などを供えて、疫病除けを祈

ったところ、疫病がおさまったという故事にちなんで、「嘉祥の日」とされました。その後、和菓子を食べる病気にならないように願う習わしとなり、昭和54年に「和菓子の日」に制定されました。

新型コロナウイルスの影響で疫病退散させる妖怪や地域に伝わる習わしが注目されています。「和菓子の日」に和菓子や餅を食べる邪気退散を願ってみてはいかがでしょうか。



季節のお菓子

水無月

水無月は京都市の発祥の和菓子で、白いういろろの上に甘く煮た小豆をのせ、三角形に切り分けたものです。三角形の形は氷を表しており、小豆は邪気を払う意味でのせられています。

6月30日に神社では、この半年の心身の穢れをはらって、残り半年の無病息災を願う「夏越しの祓え（なごしのはらえ）」が行われます。「夏越し」とは12月の「年越し」に対して、夏前の大晦日と言うことです。京都ではこの日にあわせて、水無月を食べることで邪気を払い、暑い夏を乗り切るという習慣があるそうです。

※諸説あります。

季節によって変わる 茶室のしつらえ と茶道具

茶室のしつらえは五月から十月を「風炉（ふろ）」、十一月から翌年四月を「炉（ろ）」としています。風炉の季節は、茶室が涼しく感じられるようにお客様から遠い位置に風炉を置いて釜をかけます。

お客様をもてなす為にお茶を点てる作法を「点前（てまえ）」といい、様々な道具を使います。道具の扱いはそれぞれの順序があり、位置や所作などに決まりがあります。今回は薄茶を点てる道具の一部を紹介します。



- 「釜」 水を入れて湯を沸かす道具。
- 「風炉」 釜をかけて湯を沸かす道具。風炉の時期に用いられる。
- 「水指」 茶碗や茶筌を清めたり、釜にたす水を入れる器。
- 「建水」 茶碗をすすいだ湯や水をあける器。
- 「茶碗」 抹茶を飲むための器。
- 「茶杓」 抹茶をすくう道具
- 「茶筌」 抹茶を泡立てる道具
- 「棗」 抹茶を入れる器。形が植物の棗の実に似ている。

祥雲閣の ご案内

祥雲閣では、四季折々の庭園を眺めながら、テーブルと椅子を設置した立礼茶室で、500円で抹茶とお菓子を味わえます。（10時～16時まで）

正座が難しい方や外国の方にも、気軽にお茶に楽しんでいただけます。

カレンダー

6月							7月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30	31				

※ は休館日（変更する場合があります）

所在地 大崎市古川福沼一丁目2番2号
 電話 0229-24-3385
 交通 JR古川駅から徒歩約20分
 東北自動車道古川ICより車で約10分

駐車場 有
 休館日 月曜日
 （月曜が祝日の場合は翌日）

入館料 無料



大崎市祥雲閣

令和3年5月28日発行

〒989-6105

宮城県大崎市古川福沼一丁目2番2号

TEL・FAX 0229-24-3385

